



中西金属工業株式会社

www.nkc-j.co.jp



2022年から3年連続で
「健康経営優良法人」の認定を
取得しました。



くるみんマーク(一つ星)
2016年4月に取得しました。



Fun to Share
環境省が推進する気候変動対策への活動
に賛同しています。



Nakanishi Metal Works Co., Ltd.

NEXT100

中西金属工業株式会社
NKC Sustainability Report

02 TOP MESSAGE

04 SUSTAINABILITY VISION 2024

08 ENVIRONMENT

10 カーボンニュートラル / 12 環境 / 13 世界安全大会

14 SOCIAL

16 たんぽぽアクション / 18 福祉カフェ / 19 こども食堂

20 中西奨学会 / 21 被災地支援 / 22 大阪府・大阪市北区連携

24 健康経営 / 25 ダイバーシティ&インクルージョン (D&I)

26 GOVERNANCE

28 ポジティブ志向型コンプライアンス

30 NEXT100を支える事業

32 軸受事業部 / 33 輸送機事業部 / 34 特機事業部 / 35 天満製鉄事業部

36 関連会社 / 39 海外拠点一覧

40 編集後記



新たな
100年を
目指して

TOP MESSAGE

NKCグループは次の100年へ。

歴史を振り返ると 見えてくるものとは。

過去100年で、NKCGグループは大きく二度の危機を乗り越えてきました。一度目は戦後、GHQの指定工場となり操業ができなくなった時です。その後、自転車産業に進出したものの、借入金は雪だるま式に膨らんだといいます。そして二度目は、平成初期のバブル崩壊。新設した工場がわずか2、3カ月ほどでの停止を余儀なくされ、巨額の負債を抱えました。それではなぜ、NKCGグループは今も存続できているのか。それは外部環境の変化に柔軟に対応し、逆境にあっても常に知恵を絞り行動を起こしてきたからだ。私は考えています。

変化の激しい時代を 見据えてどう動くか。

近代以降、産業構造の中心が変遷してきたように、いずれまた次の時代をつくるイノベーションが起きるでしょう。

身体の一部や臓器などの再生、培養肉や代替プロテインの製造、枯渇しないエネルギー資源の開発……。私が予測するだけでも、実現すれば産業構造はもちろん、人々の生活様式や価値観までも一変させるものばかりです。こうした変化の波をNKCGグループが乗りこなすには、変化を受け入れる体制をつくるだけでなく、変化を自ら生み出すことが重要です。そのためには、社員一人ひとりが経営者という意識を持ち、主体的にスピード感を持って考え、行動することが不可欠です。

利益創出だけでなく 持続可能な発展を目指す。

今後、企業は「社会からの要望にどれほど応えているか」という視点で評価されることが増えるはずです。サステナビリティが注目を集める中、「サーキュラーエコノミー（循環経済）」もその一つ。製品を開発・設計する段階から環境負荷の低減や資源循環について考え、資源を使い捨てにするのではなく責任を持って回収して再利用する。

中西 竜雄
代表取締役社長
中西金属工業株式会社

今よりもはるかに高度な発想や技術が必要となりますが、将来的にはものづくり企業として当然問われる責任になっていくでしょう。環境に関する法整備が進めば、一定の基準に満たない相手との取り引きをやめる企業も現れるかもしれません。これはサステナビリティ経営の「Environment（環境）」にとどまらず「Social（社会）」も同様です。人口減少に伴って税収入が減り、将来的に多くの市区町村が機能不全に陥ると言われています。そこで、地域を盛り上げていくのが企業の役割。実際に地域活性化のアイデア出しはもちろん、ビジネスの勉強会やキャリア教育などさまざまな関わり方ができると思います。こうした新たな挑戦には未知なるリスクも伴います。しかし、リスクにひるんで足を止めるのではなく、これと向き合って正しくコントロールすることで、さらなるチャレンジが可能になる

のです。守りだけでなく攻めも重視するこの考え方を「ポジティブ志向型コンプライアンス(P.28)」と呼び、取り組みを進めています。

若い力がつくる 未来のNKCGグループのすがた。

NKCGグループは未来に向けて、時代と共に変化し、自ら変化を生み出す組織を目指します。まずは若い感性を積極的に採り入れて、うまく循環する組織であり続けること。そして、新たに打ち出した「NKCG Sustainability Vision 2024」で掲げるように、事業戦略とサステナビリティ戦略を融合させていくこと。これらの推進がNKCGグループの次の100年を切り拓くカギになると確信しています。

SUSTAINABILITY VISION 2024

社会的価値と経済的価値を接続し
より良い社会と会社を、次の世代へ。

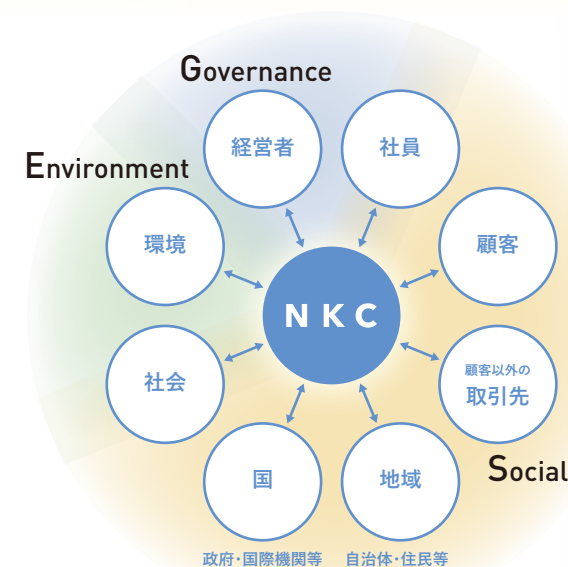
「論語と算盤」や「企業は社会の公器」という言葉にも象徴されるように、日本においては「“経済的な成長”と“より良い社会”は調和を保ちながら実現していかなければならない」という考え方が古くから提唱され受け継がれてきました。NKCグループは、創業100周年にあたり、改めてこうした原点に立ち返りつつ、次の未来を見据えた新たなサステナビリティ経営の中期(3カ年)計画を策定しました。それが、「NKC Sustainability Vision 2024」です。

「八方よし」のサステナビリティ経営で
社会になくてはならない会社。

「社会や環境のために」と言うと、「キレイごと」「罪滅ばし」という見方が強い時代もありました。しかし、経済一辺倒の活動が社会や環境に及ぼす影響は看過できないレベルになり、「経済はあくまでも社会や環境という土台の上に成り立っている」ということが強く再認識されるようになりました。そうした時代だからこそ、ただ自社のことのみを考えるのではなく、下図のようにあらゆるステークホルダーとの共存共栄を図ることが重要です。NKCグループはこうした「八方よし」のサステナビリティ経営により、「社会にとってなくてはならない会社」を目指します。



「2030年のSX戦略」板野俊哉・磯貝友紀(日経BP社)
p.12 PwC作成図を参考に作成

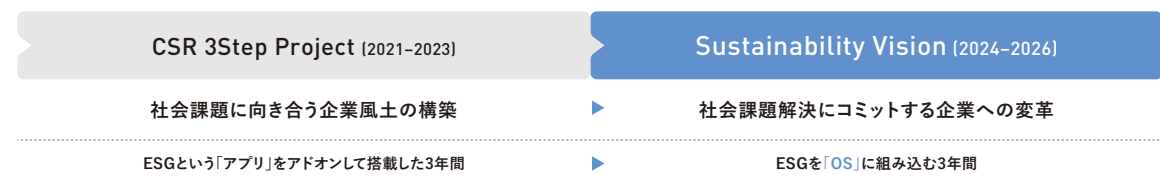


「持続可能な資本主義」新井和宏(ディスカバー携書)
p.100の図を参考に作成

サステナビリティ戦略と事業戦略の融合により 「社会課題解決にコミットする企業への変革」を。

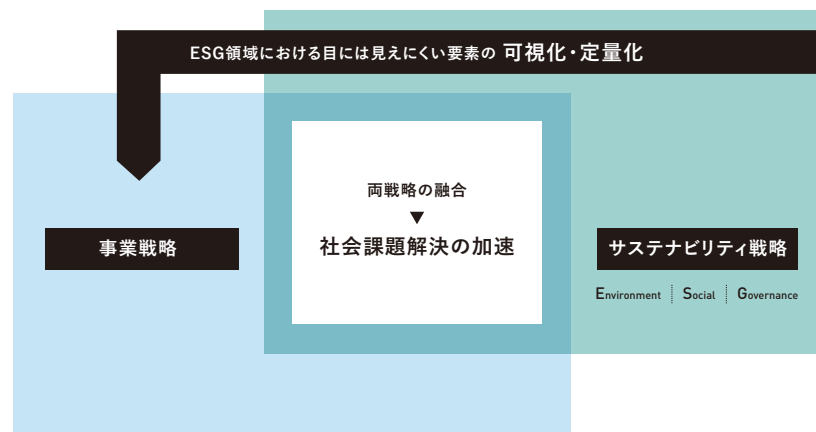
NKCグループは2021年から2023年までの3年間、「社会課題に向き合う風土の構築」をスローガンに掲げ、さまざまな活動に取り組んできました。「SDGs(持続可能な開発目標)」やこれを企業の目線から成長戦略と結びつけた「ESG^(※)」の概念を、例えるなら、「アプリケーションソフト」のように会社の至るところにインストールしてきた3年間だったと総括できます。2024年度から始まる新たな中期(3カ年)計画「NKC Sustainability Vision 2024」においては、さらに一段飛躍し、「社会課題解決にコミットする企業への変革」を目指します。ここでは、ESGを基軸としたサステナビリティ戦略を、まるで「OS(オペレーティングシステム)」の一部に溶け込むように、本流の事業戦略に融合させていきます。

※ Environment(環境)、Social(社会)、Governance(企業統治)



NKC Sustainability Vision 2024

社会課題の解決にコミットする企業へ



ESG領域における目には見えにくい要素を可視化・定量化し 社会課題解決と会社の成長戦略に相乗効果を生む。

事業戦略が主に定量的・財務的な指標(売上・利益のようにお金に換算できるもの)で語られるのに対し、サステナビリティ戦略に関しては定性的・非財務的な事柄(お金の額に換算しにくいこと)が語られることが多かったのが、両者の接続・融合が難しかった大きな理由だと考えられます。そのため、ESG領域における目には見えにくいさまざまな要素を、プラスのものもマイナスのものも両方含めて、まずはできる限り可視化・定量化していく必要があります^(※)。これによって、社会的な価値も、事業戦略の意思決定に織り込み、いかにしやすい土壌をつくります。

NKCグループは、このビジョンのもと、社会課題の解決と会社の成長戦略のベクトルを合わせて相乗効果を生むことで、持続可能な社会の実現にいつそう貢献していきます。

※ 例：カーボンニュートラル(P.10)におけるCO2の排出量など

未来につながる環境との共存。

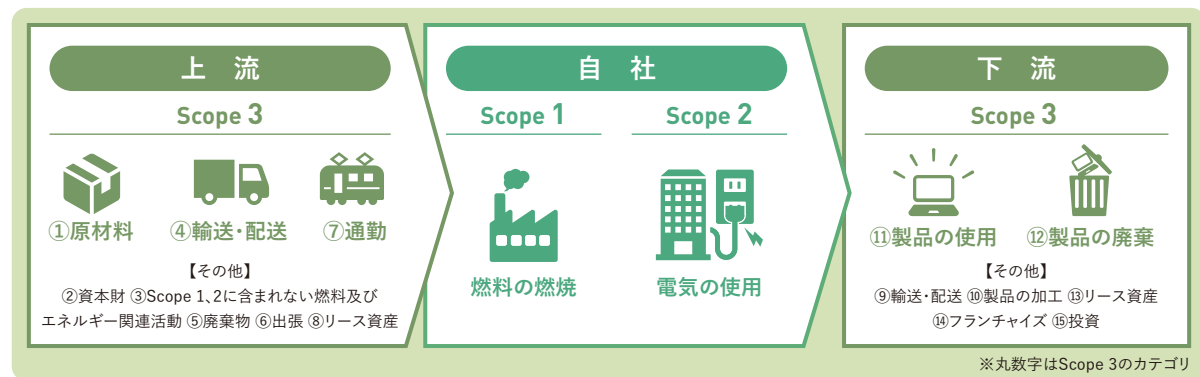
ENVIRONMENT

どれほど社会が発展し、経済活動が盛んになっても、全ての根底には自然環境があると言えるでしょう。環境保全の重要性が例を見ないほど高まる中で、企業にも「環境との共存」が強く求められています。NKCグループは環境保全や環境負荷の低減に力を注ぎ、自然環境とそこから育まれる未来を守ります。

【カーボンニュートラル】

「CO2排出量の削減」というものづくり企業としての責任を果たす。

世界中が気候変動の脅威にさらされている今、CO2をはじめとする温室効果ガスの排出量削減が求められています。NKCグループも、CO2排出量を実質ゼロに抑える「カーボンニュートラル」を喫緊の課題としてとらえ、「Scope 1・2・3」の削減を実行に移しています。NKCグループはこれまで、燃料の燃焼をはじめ自社が直接排出するCO2(Scope 1)や、電気などの他社から供給されたエネルギーの利用を通じて間接的に排出するCO2(Scope 2)の削減に注力してきました。そして2024年度からは「Scope 3」に駒を進め、原料調達から製造、物流、販売、廃棄まで、モノのライフサイクル全体に視野を広げたCO2排出量削減を推進していきます。



「削減貢献量」の考え方で地球環境への貢献度を可視化する。

例えば、これまでより使用時のエネルギー効率が良いものや長寿命のものなど、画期的な製品の開発に成功したとします。世界中で使用されている従来品がこうした製品に置き換わることで、製品の使用から廃棄までの段階で発生するCO2の総量を大きく減少させることができる可能性があります。これが「削減貢献量」という考え方であり、ものづくり企業であるNKCグループが、本業の強みをいかしてもっとも大きく気候危機問題に貢献できる領域でもあります。排出量削減の取り組みと合わせ、私たちにできるベストな貢献のかたちを模索し挑戦していきます。

ENVIRONMENT

CO2排出量削減の取り組み事例

●太陽光発電の導入（中西化工株式会社、名張中西金属株式会社）

NKCグループでは、一部の拠点にソーラーパネルを設置し、太陽光発電によって自社の電力をまかなっています。2023年4月に導入した中西化工株式会社では、2023年度の電力使用量に対する太陽光発電量の比率は13%でした。名張中西金属株式会社では2024年2月に導入。電力使用量に対する太陽光発電量の比率は、年間を通して約4%となる見込みです。発電時にはほとんどCO2が発生しないことから、環境負荷の低減に大きく貢献しています。



中西化工株式会社



名張中西金属株式会社

「サステナビリティ活動を「ヤギ」がリード!？」

名張中西金属株式会社に勤務するのは私たち人間だけではないとご存知でしょうか？なんと約10頭のヤギが一生涯懸命に働いているのです。ヤギは三重県名張市内の企業から派遣され、毎年4月から11月頃まで敷地内にあるのり面の除草作業を担当してくれています。人間の手で作業を行うよりも費用や安全、環境などさまざまな面でメリットがあり、名張中西金属株式会社ならびにNKCグループのサステナビリティに貢献しています。



【環境 廃棄物・エコカー】

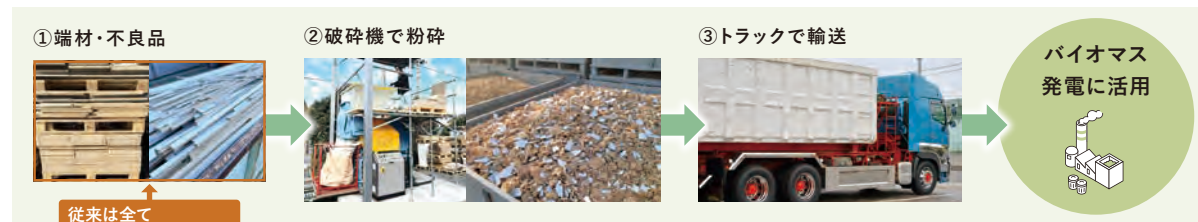
これからの製造業に問われる
人と環境にやさしいものづくり。

NKCグループは自然環境との共生を目指し、CO2排出量削減、地域清掃活動への参画、社員食堂の生ごみのコンポスト化など、さまざまな活動を通して環境保全を推し進めています。2023年度にはこうした多彩な取り組みが評価され、団体として唯一「大阪市環境表彰」を受賞しました。さらに、2007年から現在に至るまで「ゼロ・エミッション」を達成。直接埋立廃棄物ゼロ、再資源化率(リサイクル率)99%以上を維持しています。日々の事業活動においては社用車にエコカーを導入。非常用電源としての機能を併せ持ち、環境負荷の低減にとどまらず防災にも役立てられています。

自然環境を守ることは、未来の地球とそこに生きる人々を守ること。持続可能な社会を実現するために、これからも事業活動と両立する環境保全活動を実践していきます。

●木質チップのバイオマス発電への活用(株式会社須田商事)

廃棄物削減を目指し、株式会社須田商事はバイオマス発電所への「木質チップ」供給に取り組んでいます。事業活動においてメインで使用する木材「パーティクルボード」は、これまで製造過程で端材や不良品が発生しても産業廃棄物として処分するほかなく、年間約2,500トンに及ぶ産業廃棄物が発生していました。そこで、従来は廃棄されていた木材をバイオマス発電の燃料となる「木質チップ」に加工。近隣のバイオマス発電所と連携することで、有効活用できるようになりました。2023年度には約1,000トンの産業廃棄物削減に成功し、環境保全に寄与しています。



「大阪市環境表彰」を受賞



エコカー導入



チームディスカッション



ワークショップ



本社でのレセプション

ENVIRONMENT

【世界安全大会】

国や地域を超えた「仲間」に学び
安全で働きやすい環境をつくる。

職場の安全衛生を確保し労働災害を防ぐには、各拠点での改善活動に加えて新たなノウハウの習得が欠かせません。そこでNKCグループでは、2016年より国内外の生産拠点間における情報共有と労働災害を起こさないしくみづくりのさらなる強化を目的とした「世界安全大会(GSC: Global Safety Conference)」を実施しています。2024年に開催された第3回GSCのテーマは『現地現場での対話を通じた学びのアウトプット』。サステナビリティ戦略部の主催のもと、海外生産拠点の安全担当者が中西金属工業株式会社本社や国内生産拠点を訪問し、ディスカッションやワークショップなどのプログラムを通じて意見を交わしました。実施後、各拠点に学びを持ち帰った参加者からは「各国メンバーとの対話に刺激を受けた。今後の安全活動の参考となり非常に有意義だった。」という声が多く聞かれました。引き続きグループ一体となって安全意識の醸成に取り組み、誰もが快適に働けるサステナブルな環境づくりを実現します。



地域社会と手を取り合い共に発展する。

S O C I A L

創業当初から長年にわたって、
社会貢献活動に熱情を注いできた NKC グループ。
近年、地域社会との連携はいっそう強固なものとなりました。
さまざまな活動を通して人や地域とつながり、
持続可能な社会の実現に貢献します。



【たんぽぽアクション】

楽しいしくみで社会貢献。

社会に「ぽっ」を増やす活動です。

NKCグループは事業活動、そして地域社会と連携した社会貢献活動の両面から、社会の課題解決やサステナブルな社会の実現を目指してきました。その新たな取り組みとして2023年に始まったのが、社員一人ひとりが社会にもっと目を向け、誰かのために一歩踏み出すことを応援する活動「たんぽぽアクション」です。

誰かに喜んでもらえるってうれしい。手を差し伸べられた人だって、きっとうれしい。「たんぽぽアクション」はそんな「ぽっ」と心があったかくなる行動を増やすために生まれました。社会課題の背景を知る、疑問を持つ、まずは自分にできることから始めてみる。こうした些細な気づきや体験が、誰かの心に届いて新しい花を咲かせるかもしれません。

さらに、社員の自発的なアクションは「たんぽぽアクション」特設サイト上で見える化。行動した分だけ社内独自のコインが貯まり、ちょっとした幸せが返ってくる楽しいしくみになっています。コインは「エシカル商品」との交換や寄付などに使うことができ、そのアクションがまた誰かの幸せへとつながっていきます。

楽しそうだから。仲間と出会えるから。そんなポジティブな気持ちで人々がつながって、たんぽぽのようにふわりふわりと活動が広がっていくことを願っています。



たんぽぽ アクション

● これまでのソーシャルアクション



(2024年5月末日現在)



SDGsカードゲーム体験



たんぽぽマルシェ
(福祉施設でつくられた
商品の社内販売)

SOCIAL

人と地域をつなぎ、みんながいきいきと過ごせる居場所をつくる。

1924年の創業以来、NKCグループはさまざまな社会貢献活動に取り組んできました。

その中でも特に力を入れてきたのが「こども・障がい者福祉」の分野です。

2022年には地域との連携をいっそう深めるために、

本社所在地である大阪市北区(天神橋筋商店街)に「NKCなかにわ」を開所しました。

【福祉カフェ】

一人ひとりが自分らしく活躍できる場を。



「NKCなかにわ」にて、障がいのある方が働く福祉カフェを運営しています。店内にはゆったりとくつろげる空間が広がり、曜日ごとに趣向をこらしたランチが楽しめる地域の方にも好評です。カフェでたくさんの「できる」「できた」経験を重ねることが、一人ひとりが個性をいかして働く未来につながっていくはずです。今後も障がいのある方々の社会参画を支え、地域に根ざした活躍の場をよりいっそう広げていきます。



【こども食堂】

色とりどりの未来を描いてほしい。

2018年、未来あるこどもたちのために立ち上げたこども食堂。2022年には「NKCなかにわ」に活動場所を移し、こどもたちへの食事の無償提供はもちろん、さまざまな文化に触れるワークショップや親子で参加できるプログラムなど、地域社会と連携しながらこどもたちに新たな価値を提供する体験機会づくりに取り組んできました。こどもたちが笑顔あふれる毎日を過ごし、その未来の可能性が少しでも広がり、のびのびと夢を描けるように……。NKCグループはこれからもこどもたちに寄り添い、一緒に成長していく存在であり続けます。



センサリールーム(連携:パナソニック株式会社
エレクトリックワークス社)



ハロウィンイベント



ライブペインティング(連携:絵本作家 谷口智則先生)



ダンスイベント

【中西奨学会】

次代をつくる若者たちの
背中を押すという使命。

1971年、中西金属工業株式会社の2代目社長・中西義雄氏によって設立された中西奨学会。これからの産業科学技術を担う若者たちが学業に打ち込めるように、半世紀以上にわたって育英奨学事業に取り組んできました。経済的な理由から修学が難しい学生への奨学金をこれまで約5,100名に給付したほか、産業科学技術に関する研究機関へも助成金を提供し、その総額は約13億円にのぼります。そして、支援のかたちは金銭的なサポートにとどまりません。年に一度、日本の産業やキャリアについて考える場として奨学生



懇親会を開催。

中西奨学会やNKCグループの事業・活動紹介のほか、グループワーク、奨学会理事や中西金属工業株式会社の社長・若手社員との交流会など、参加者の主体性を育むプログラムを実施しています。学生のうちにグローバルメーカーの社屋に足を踏み入れ、他の学生や企業で働く人々と接した経験は、きっと学生生活やその後の進路にいかされるはずです。若者たちと産業界の未来がより良いものであるように、中西奨学会は次の時代へと活動をつなぎ続けます。

研究助成例(2024年度)

産業用機械に関する分野：多関節ロボットの回転軸偏心量のXYθ変位センサの開発

化学系材料に関する分野：アクリル酸エステル系 バイオマス由来CNFナノコンポジットシール材検討

住宅に関する分野：住宅に付随する無用の「蔵」から「交流拠点」への転用

地球環境に関する分野：バイオマスガス化プラントで発生する廃棄物の再燃料化

地球環境に関する分野：大規模IoTモニタリングネットワークと先端計算機資源を融合した森林管理の好循環化による環境調和型システムの実証的構築



【被災地支援】

日本赤十字社に
令和6年能登半島地震
の義援金を寄付。



NKCグループは令和6年能登半島地震の被災地支援として、日本赤十字社に合計186万2,600円（会社からの100万円、社員から集まった43万1,300円にその同額を会社がマッチングギフトとして上乗せした金額）の義援金を寄付しました。



工科高校 キャリア教育支援



中学校 出前授業



本社西棟
LEDサイネージなどを
活用した府政・区政PR



SOCIAL



【大阪府・大阪市北区連携】

行政との二人三脚で地域社会をもっと豊かに。

NKCグループは持続可能な社会の実現に貢献するため、さまざまな活動に取り組んでいます。本社所在地・大阪府をはじめとする地域社会への貢献は、創業当時より特に力を入れてきました。近年、大規模災害の多発や貧困問題など、地域社会には行政の力だけでは解決が難しい課題が多く立ちはだかっています。そこでNKCグループは、行政と企業が協力して課題解決を目指す取り組みに賛同し、2022年3月に大阪府と「包括連携協定」、同年9月には大阪市北区と「連携協定」を締結しました。



特機事業部
「animacolle」ブランドを
通じた動物愛護啓発・
寄付活動

桜ガーデンホテル「災害時における
旅行者の受入れ等に関する協定」締結



こどもの防犯啓発のための
配布グッズの寄贈



「NKCなかにわ」での福祉カフェ、こども食堂運営



地域イベント参加
(天満音楽祭など)



フードパントリー協力



中学校 職業体験



小学校 放課後出前授業



【健康経営】

いつまでもはつらつと過ごすために
無理なく続けられる健康づくりを。

人生100年時代を迎える中で、NKCグループは全ての社員が心身共に健康でいられる環境づくりに注力しています。その柱として全社員に提供しているのが「ウェルネスPDSAプログラム」。健康三大要素「休養」「栄養」「運動」を取り入れた簡単な健康タスクをこなすことで、体組成数値改善や健康づくりの習慣化が期待されるプログラムです。

その他にも、毎年10月に「NKCウォーキングイベント」を実施したり、本社にフィットネスジムを完備したりと、社員が楽しみながら健康を意識できるような取り組みを展開しています。NKCグループの健康経営は経済産業省からも高い評価を受け、2022年から3年連続で「健康経営優良法人」の認定を取得しました。社員が公私共に充実した生活を送れるように、今後も会社をあげて健康づくりを促進していきます。



社内フィットネスジム



2024
健康経営優良法人
Health and productivity



「健康経営優良法人」の認定を取得



社内交流会



コラム配信



ランチ交流会

【ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）】

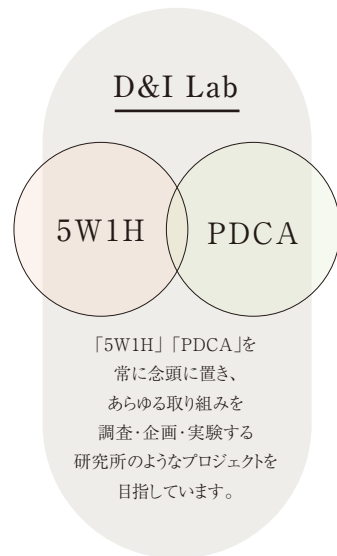
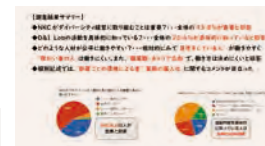
多様性を力に変えて

予測不可能な時代を漕ぎ進む。

VUCA時代(社会やビジネスを取り巻く環境が変化し、将来の予測が難しい状況)にあると言われる現代。企業にはさまざまな人材を確保し、その多様性を力に変える必要性が問われています。NKCグループもダイバーシティ経営を推進して、年齢や性別、国籍、障がいの有無をはじめとしたあらゆる個性と能力が輝く組織を目指しています。2022年4月には社員目線でダイバーシティ経営を考える社内横断プロジェクト「D&I Lab.」が発足。「5W1H(誰のために、いつ、何をするのか。)」 「PDCA(改善・発展しながらも継続させるにはどうすべきか。)」を念頭に置き、これまでD&I理解促進や社内風土調査、社内コミュニティの形成などに取り組んできました。ダイバーシティは全社員に関わる事柄です。誰もが自分らしく、やりがいを感じて働ける状態を実現するために、今後も一人ひとりが当事者意識を持って考えていきます。

SOCIAL

社内アンケート調査



変革を恐れずしなやかに飛躍する組織へ。

GOVERNANCE

世の中の変化がますます加速している現代。

そんな時代を生き抜くには、変化に適応し、

自ら変化を生み出す組織体制づくりが何より重要です。

風通しの良い企業風土を醸成し、そして

「ポジティブ志向型コンプライアンス」を推進することで、

一人ひとりが主体的に行動できる組織を目指します。

【ポジティブ志向型コンプライアンス】

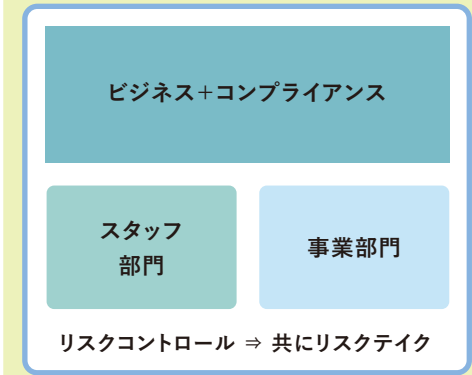
未知のチャレンジに伴う「リスク」を
未来を切り拓く「チャンス」に変える。

「コンプライアンス」と聞くと「細かく厳しいルールで、チャレンジを束縛するもの」というネガティブなイメージを持つ方も少なくないのではないのでしょうか。このような旧来式の大量の禁止規定による管理手法は、時として現場の自由な発想を奪い、思考を硬直化させてしまいます。それどころか、社会環境が目まぐるしく変化する現代だと、過去のリスク事案をベースにした禁止規定集に盲目的に従ってでは、細部ばかりに目を奪われて大きなリスクを見逃してしまう危険性もあるのです。

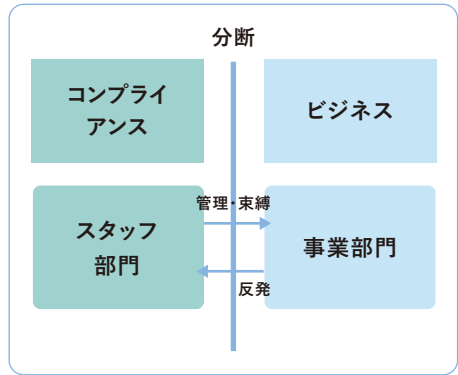
NKCグループが目指しているのは、一人ひとりの社員が「経営者視点」を持ち、果敢に挑戦できる組織です。例えば、現在の法律が想定していない状況に直面するなど、新たなチャレンジには当然ながら未知のリスクが伴います。しかしそこで諦めてしまうのではなく、判断の拠りどころとなる「目的」や「原則」を骨太に定め、各自がこれをベースに「主体的・自律的に考え判断する力を高めていく」ための施策を講じる。これこそが『ポジティブ志向型コンプライアンス』の果たすべき役割です。リスクから目を背けず、向き合い、克服することで、ワクワクできる未来を自分たちの手で切り拓いていく。そんなNKCグループのあり方を実現していきます。

positive-oriented
compliance

ポジティブ志向型 コンプライアンス



ネガティブ志向型 コンプライアンス



想定している 社会の変化スピード	速い(VUCAの時代)	遅い
ルール設計の 基本思想	プリンシプル ベース(目的・原則を強調) 信頼・未来志向・レジリエンス(自己回復力)	ルール ベース(大量の細かな禁止規定) 疑念・過去志向・ゼロリスク
社員に及ぼす効果	誇り・自分事・臨機応変・チャレンジ	コンプラ疲れ・他責・思考停止
会社に及ぼす効果	全体最適・現場リスクマネジメント力向上 ⇒事業促進&リスクの極小化	部分最適・現場リスクマネジメント力低下 ⇒事業萎縮&新たな不祥事の火種



NEXT100 を支える事業

NKCグループは時代のニーズを汲み取った製品・サービスを世に送り出し「社会の安全と安心の保持」に貢献してきました。ものづくり企業として製品をつくることにとどまらず、独自の技術力で持続可能な社会の実現、社会課題の解決に寄与することが私たちの存在意義です。そして、そのためには私たち自身も柔軟に変化しなければなりません。今まさに技術力向上や効率化、事業拡大など、各事業部がそのあり方を模索しています。社会に求められるNKCグループの役割は絶えず変わってきましたが、「変化を恐れずチャレンジする」という信念は創業から現在、そして未来までも変わることがないでしょう。時代と共に試行錯誤を重ねながら、全社一体となって次の100年に歩んでいきます。



軸受 事業部

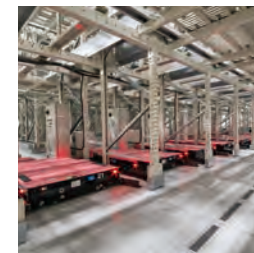
確かな技術と信頼で社会にいい回転を。

Bearing Retainer Division

中西金属工業株式会社がベアリングリテーナーの生産を開始して以来、社会で動いている機器に貢献してきた軸受事業部。現在では、ベアリングリテーナーに限らず、幅広い分野に使われる部品の開発・製造・販売を行うことで社会に貢献しています。お客様に信頼され、共に歩んでいただけるパートナーとしてあり続けるために、柔軟な組織づくりを行い、オープンな雰囲気のもとで、時に厳しく、コツコツと努力してきました。蓄積してきたノウハウと新しい知見を活用し、次の100年も自由さと厳しさの共存を継続することで、さまざまな困難に立ち向かい、乗り越え続けられるNKCグループの屋台骨であり続けます。



1952年からコンベアの生産を開始し、マテハン機器・コンベアシステム、そしてトータルFA化へと事業を拡大してきた輸送機事業部。近年はサステナビリティに重点を置き、エアレスや省電力といったコンベアの供給を通してSDGs目標13「気候変動に具体的な対策を」に寄与しています。また、SDGs目標8「働きがいも経済成長も」に該当する取り組みとして、自動車のEV化に沿ったフレキシブルなトータルFA提案のほか、全てのメンバーが権限を持つ「ティール組織」の考え方を取り入れた組織づくりを行うことにより、従来であれば上司の判断を仰ぎ指示を待っていたイレギュラー時も、個人による迅速かつ柔軟な対応が可能になりました。フラットな環境のもと社会貢献性の視点を取り入れることで、未来につながる事業の新たな可能性を追求し続けます。



輸送機 事業部

物を運ぶ技術で安心・快適・高生産性を提供する。

Conveyor Division



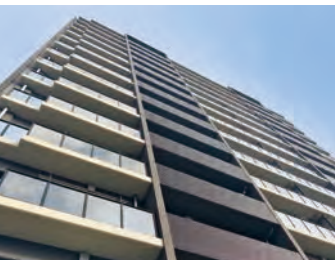


特機 事業部

世界に誇れるオンリーワンの価値を創造する。

Sash Hardware Division

軸受事業部から派生し、住宅分野においてNKCグループならではの「回転」の技術に応用している特機事業部。戸車をはじめとする窓周りの住宅関連事業から始まり、リフォーム事業、ペット事業と、既存の事業にとらわれずさまざまなチャレンジによって事業範囲を広げてきました。そのため、お客様もBtoBではハウスメーカー様やマンション管理会社様、そしてBtoCでは



EC販売やSNSを通じて広く一般の方々へ向けて、NKCグループが得意とする“安心安全なものづくり”をお届けしています。多様な事業に取り組む私たちだからこそ、目まぐるしく移り変わる環境に柔軟に対応しながら、人々の安全で快適な暮らしを支え続けることが使命です。「極める品質 最高の技術 世界に届ける No.1」をスローガンに、オンリーワンの価値を創造していきます。

天満製鉄事業部は二次圧延メーカーとして高精度・高品質な鋼材を提供しています。自社一貫製造という強みをいかし、板厚や硬度の微調整、小ロット・短納期対応など、他社ではなかなか真似のできない付加価値を提供し続けています。また、ほぼ全ての新幹線車両に使用されているベアリングリテーナー材を製造。厳しい品質基準をクリアし、「新幹線0系」から現行車両まで長く使われ続けるほど確かな信頼を得ています。



天満製鉄 事業部

素材と向き合い続け、社会と向き合い続ける。

Temma Sheet Metal Division

当社独自の技術を磨き上げてきた「冷間圧延（加工時に熱を加えない圧延手法）」は、納品後のお客様の工程における切削や研磨といった作業が不要となり、CO2排出量削減にも貢献しています。

2021年には工場移転と株式会社NKC NASSHのM&Aを行い、今まさに「攻め」の姿勢に転じようとしている私たち。積み重ねてきた信用と期待に応え、未来を切り拓く付加価値を追求します。



多彩な分野で磨かれた力を結集し
NKCグループにシナジーを生み出す。



中西興産株式会社 (ISA Travel / Noren Travel Japan)

〒530-0042 大阪府大阪市北区天神橋3丁目3番5号

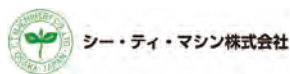


「ISA Travel」は総合旅行代理店としてお客様一人ひとりの要望に応じた旅行を提案する旅行会社です。国内外のツアーをはじめ、航空券手配や旅行保険商品を提供するほか、近年はヘリコプターやセスナの遊覧飛行販売にも力を入れ、多くのお客様からご好評をいただいています。また、「Noren Travel Japan」はインバウンド向け旅行商品を販売するブランドとして世界中から訪れるお客様に日本の魅力を伝えています。



シー・ティ・マシン株式会社

〒530-0041 大阪府大阪市北区天神橋1丁目12番8号 創建天神橋ビル2F



セキュリティ製品に特化し、車両認識システム、チェーンゲート、ボラード、自動開閉門扉などを提供しています。これらの製品は車両の運行管理やセキュリティ強化に役立ち、駐車場やマンション、官公庁などで広くご利用いただいています。2025年5月に50周年を迎える当社。自動ゲートのパイオニアとして「かけがえのない生活環境を守る」という使命を果たすべく、長年のノウハウとテクノロジーをもとにより良い製品の開発に取り組んでいます。

イーグローバレッジ株式会社

〒153-0051 東京都目黒区上目黒2丁目1番1号 中目黒GTタワー 7F



エレクトロニクスの技術専門商社として、専門的な知識や最新の情報を備え、洗練された技術、製品、多彩なサービスを提供しています。半導体、衛星通信、センサーなどのエレクトロニクス製品は変革が速く、ますます高度化・多様化しています。常に高度な専門性、技術力の充実に図り、業界屈指の技術を有する国内外のパートナー企業と連携し、新たな製品やサービスを提供し続けます。



株式会社須田商事

〒329-0604 栃木県河内郡上三川町大字上郷2185番地5



木工技術をいかし、システムキッチンや洗面化粧台といった住宅設備の製造を担っています。生産設備の充実によって仕上がり精度と安定した品質を確保し、お客様の期待に応える生産体制を構築しています。今後は家具を起点としてさらに事業を広げ、私たちの技術をたくさんの方々にお届けしていきます。





富士ホーニング工業株式会社

〒153-0051 東京都目黒区上目黒2丁目1番1号 中目黒GTタワー 7F



1949年の創業以来、自動車産業を中心とした超精密ホーニング事業に注力してきました。ホーニング技術は電気自動車やロボット、医療機器、航空宇宙などの分野でも求められており、将来的にその可能性はさらに広がりを見せると言われています。世界市場で培った技術やノウハウをいかし、新たな領域の技術開発にも果敢に挑み続けます。



NKCながいグリーンパワー株式会社

〒993-0061 山形県長井市寺泉3664番地8



資源循環型社会の実現を目指して、環境にやさしいエネルギーを活用した発電に取り組んでいます。木質バイオマス発電事業では、拠点を置く山形県とその周辺地域の材木のみを使用。輸入木材と比べてよりCO2排出を抑制できるほか、森林整備を通じた国土の保全や災害抑制、間接的な雇用創出など、地域社会の持続可能性向上にも貢献しています。



株式会社NKC NASSH

〒592-0001 大阪府高石市高砂3丁目20番地



NKCグループの一員になった2021年、社名を新たに「株式会社NKC NASSH」としてスタートを切り、鋼板の加工や販売を手がけています。従来から行ってきた冷間圧延加工やシェーリング加工を得意分野とするほか、高い技術を持って天満製鉄事業部と協働し、ベアリングリテーナー材の製造にも携わっています。圧延の技術をいかし、材料ロスの減少に貢献できる事業のあり方を目指しています。

海外拠点一覧

ヨーロッパ



NKC MANUFACTURING SWEDEN AB
NKCCONVEYORS (UK) LTD.
NKCCONVEYORS (UK) LTD., HUNGARIAN OFFICE
NKCCONVEYORS BARCELONA

北米・中南米



NAKANISHI MANUFACTURING CORPORATION

NKC CONVEYORS INSTALLATION CO.

NKC OF CANADA, INC.

NAKANISHI CONVEYOR DE MEXICO S. DE R. L. DE C. V.



NKC OF AMERICA, INC. HEADQUARTERS

アジア・オセアニア



NKC MANUFACTURING PHILIPPINES CORPORATION

NKC CONVEYORS PHILIPPINES CORP.

中西金属工業（大連）有限公司

仲西輸送設備（佛山）有限公司

台湾仲西輸送機股份有限公司

NAKANISHI CONVEYORS ENGINEERING (MALAYSIA) SENDIRIAN BERHAD

THAI NAKANISHI CO., LTD.

NKC CONVEYOR INDIA PRIVATE LIMITED

P.T.NAKANISHI INDONESIA



中西金属（無錫）軸承電機有限公司

NETWORK

編集後記

NKCグループは2024年に創業100周年を迎えました。その歴史は、挑戦を繰り返しながら発展してきた「事業活動」、そして会社をあげて力を入れてきた「社会貢献活動」を中心に紡がれてきたと言えます。そこで「サステナビリティ」に焦点を当て、さまざまな取り組みを振り返り、これから未来に向けての指針を示したのが本誌「NKC Sustainability Report」です。どんな逆境にあっても、主体的に考え、行動を起こすことで苦難を乗り越えてきたNKCグループ。長年受け継がれてきたこの考え方をもとに、ステークホルダーの皆様と手を取り合い、社会課題の解決、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

NEXT100
中西金属工業株式会社
NKC Sustainability Report